

立神は淺から海岸づたいに呼子へ行く途中、屹立した二本の巨石で奇観を呈しているのが、立神で、柱状の玄武岩で出来ています。この附近は鯛網で有名であります。

ヒツ金

整然とした柱状の玄武岩で、玄海の荒波によつてヒツの洞穴がうがたれており、その一つは奥深く舟を入れることが出来ます。立神、ヒツ金何れも、西ノ浜から遊覧船が出ております。西の浜から一時間かゝります。

呼子

呼子町は唐津の西北約四里、バスで五分、天然の良港で、海産物の集散地であります。四年前松竹映画「海の花火」で全国に紹介されてから一躍觀光地としてクローズアップされました。水族館があり、珍味松浦漬はこの産であります。呼子の名物として「呼子のけいらん喰わねはねえらん」の「けいらん」があり、又旧端午の節句の大綱引が有名であります。対岸の殿の浦は三百年來の悲恋悲話に富む女郎屋町で、その女は今だに、自ら櫓を操つて客を送り迎える情緒気分にも男性の胸琴は引かれるのであります。旧藩時代の士は夜口ツソリ唐津から殿の浦に出掛け朝帰りをしていたと云うことです。

詩人北原白秋が

片手漕ぎ漕ぎ日今をさして何時また逢うやら殿ノ浦……

と歌っています。

田島神社

呼子の対岸加部島にあり、元、国幣中社で、女神を祭り、此の附近最古の神社で、神功皇后、大岡征韓の時何れも、戦勝祈念をした海内鎮護の神として今日に至るも参詣者が多いのであります。宝物として備前国住人吉次銘の国幣の刀があります。

佐用姫神社はこの境内にあります。朝鮮に使した大伴狹手彦を恋い慕い、佐用姫は、夫の後を追つて、この島に來て、悲しみのあまりこがれ死に、石となりました。これが望夫石で、神社内に祭つてありますが、石は見る事が出来ず、肥前島居があります。

名護屋城

唐津より西北約五里、バスにて一時間十分。偉人豊太閤は、日本国中至手中に納めた後、海外に雄飛しようと、朝鮮の役を起し、天正十九年（今を去る三百六十五年前）十月から翌文禄元年二月まで僅か五ヶ月間に、九州の諸大名に命じて基礎工事をやらせ、建物は全国の諸大名に分担させて完成したものであります。秀吉はこの城を本據として約三十万の軍勢を以つて、文禄、慶長の役を起したのですが、諸侯の陣營は約一里半四方に及んでいました。

秀吉は正味通算約一年三ヶ月在城し、二回名護屋に來ましたが、慶長三年征討の途中亡くなりました。一回は大政所の病気で帰り、今一回は秀頼の出生で大阪に帰つております。淀君はこの名護屋城で懐妊しました。

広沢寺は、秀吉が名護屋城主名護屋越前守の妹を寵愛し、山里丸の一端に「お局屋敷」を与え、広沢局と稱しましたが、秀吉の死後広沢局は尼となり寺を建て、菩提を吊いました。此処に加藤清正が朝鮮から持つて來たと伝えられる蘇鉄が残っています。

夏草やつわもの共の夢のあと

（芭蕉）